

III 手帳非所持者調査の結果

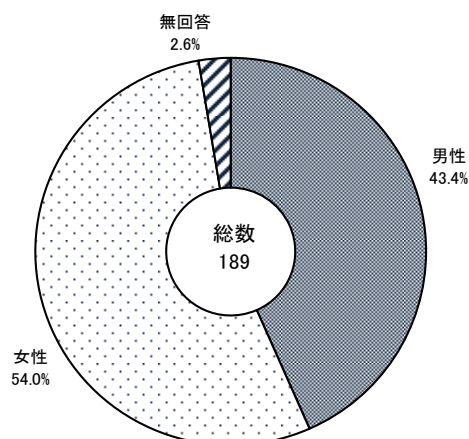
1 対象者の属性

(1) 性別・年齢

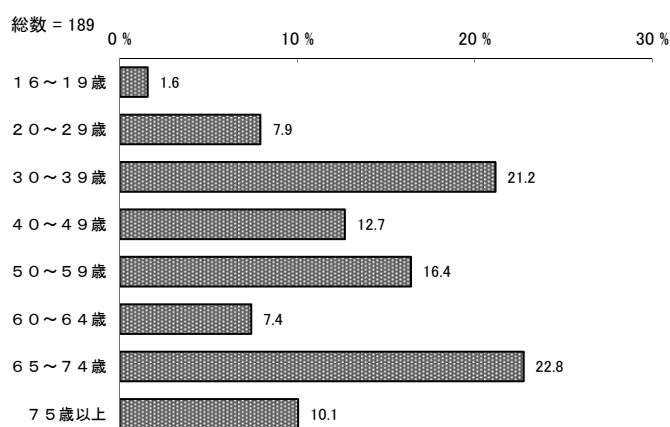
○性別では、対象者の 54%を女性が、約 43%を男性が占めている。

○年齢では、65～74 歳が 23%と一番多く、次に 30～39 歳 21%、50～59 歳 16%とつづいている。

問 1. (1)性別



(2)年齢

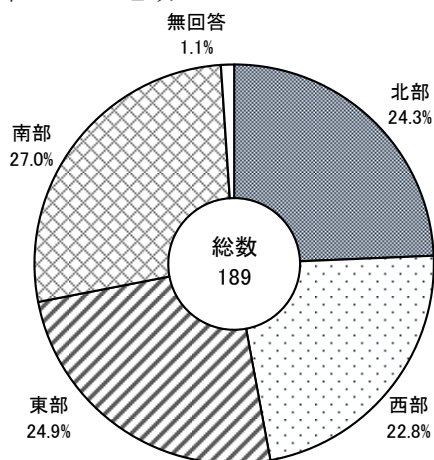


(2) 住まいの地域

○住まいの地域は、南部が 27%と多くなっているが概ね均等である。

※地域区分については p4 を参照

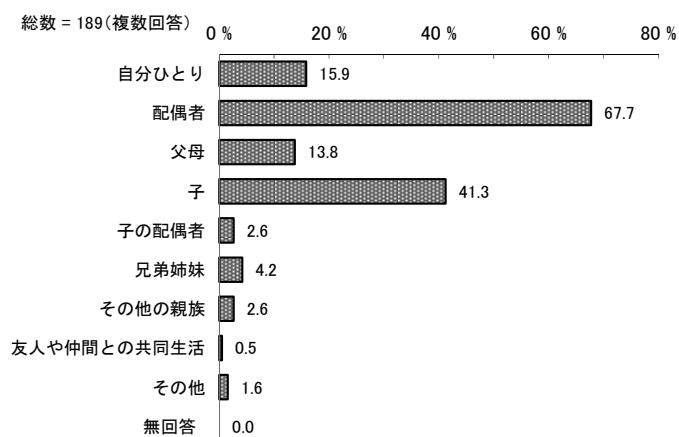
問 2. 住まいの地域



(3) 同居している方

○同居家族としては、配偶者（約 68%）、子（約 41%）、父母（約 14%）を挙げると割合が高くなっている。また、自分ひとりも約 16%と比較的高い。

問 3. 同居している方



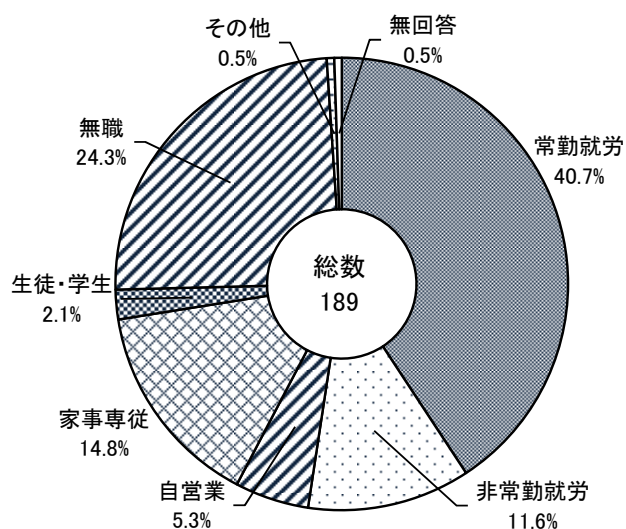
(4) 職業

○回答者の約4割以上が常勤就労である。

ついで、無職が約24%、家事専従が約15%、非常勤就労が約12%と多く、自営業が約5%、学生が約2%と少数である。

○年代別では、20～50歳代で常勤就労が半数以上を占め、65歳以上で無職の割合が6割以上となっている。

問4. 職業



問4. 職業 ×年代別

		全体	常勤就労	非常勤就労	自営業	家事専従	生徒・学生	無職	その他	無回答
全体		189	77	22	10	28	4	46	1	1
		100.0	40.7	11.6	5.3	14.8	2.1	24.3	0.5	0.5
年代	16～19歳	3	-	-	-	-	3	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	20～29歳	15	9	4	1	-	1	-	-	-
		100.0	60.0	26.7	6.7	-	6.7	-	-	-
	30～39歳	40	27	4	1	7	-	1	-	-
		100.0	67.5	10.0	2.5	17.5	-	2.5	-	-
	40～49歳	24	12	5	-	5	-	2	-	-
		100.0	50.0	20.8	-	20.8	-	8.3	-	-
	50～59歳	31	16	4	4	6	-	1	-	-
		100.0	51.6	12.9	12.9	19.4	-	3.2	-	-
	60～64歳	14	6	2	1	3	-	2	-	-
		100.0	42.9	14.3	7.1	21.4	-	14.3	-	-
	65～74歳	43	5	3	2	6	-	27	-	-
		100.0	11.6	7.0	4.7	14.0	-	62.8	-	-
	75歳以上	19	2	-	1	1	-	13	1	1
		100.0	10.5	-	5.3	5.3	-	68.4	5.3	5.3

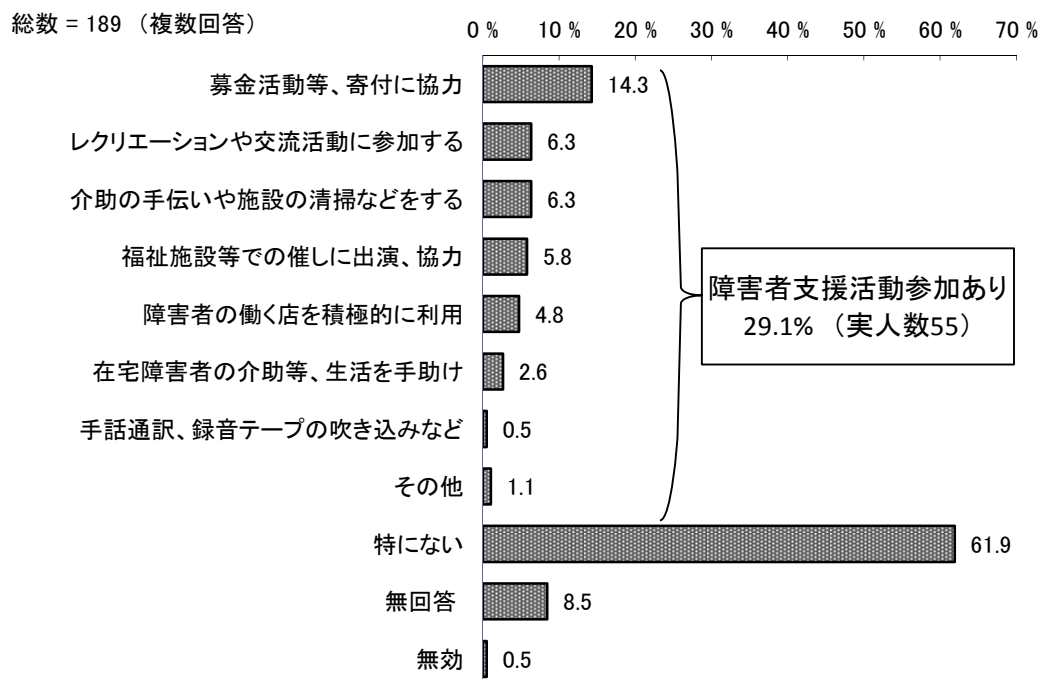
※クロス項目において上位2位までの割合を網掛け。

（５） 障害者を支援する活動経験

○これまでに障害者を支援する活動に参加した経験が「特にない」とする割合が約 62%と最も高くなっている。

○一方、障害者を支援する活動として最も参加の多いもの（複数回答）は、「募金活動等寄付に協力」（14%）で、「レクリエーションや交流活動に参加」、「介助の手伝いや施設の清掃などをする」「福祉施設等での催しに出演、協力」などへの参加が約 6%前後と続いている。

問 14. 障害者を支援する活動の経験

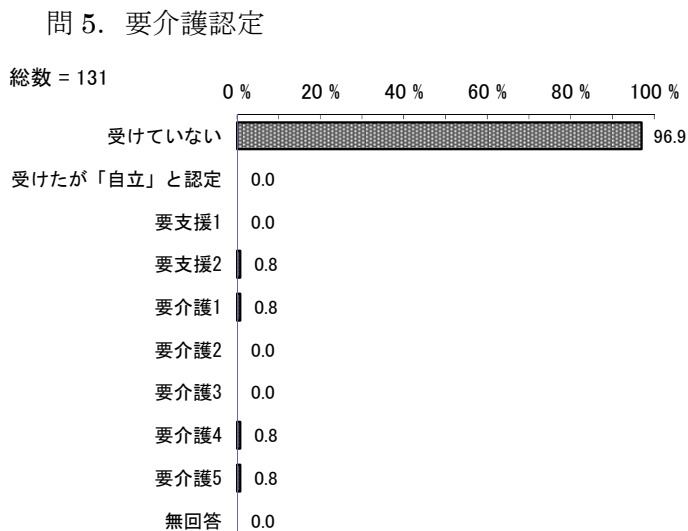


※「障害者を支援する活動」と「特にない」の双方を回答したものに関して無効としている。

2 健康・福祉に対する関心について

(1) 要介護認定

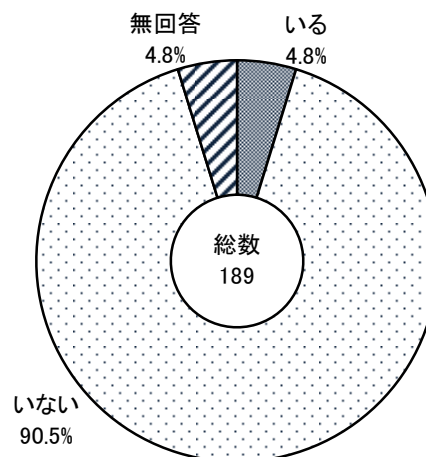
○40歳以上の人で要介護認定を受けている人はきわめて少なく、「受けていない」とする割合が約97%と大部分を占めている。手帳所持者と比較して、「受けていない」割合が30ポイント程度高くなっている。(p6 参照)



(2) 介護が必要な家族の有無

○要介護の家族が「いる」人は5%程度を占める。手帳所持者全体と比較して8ポイント程度低くなっている。(p6 参照)

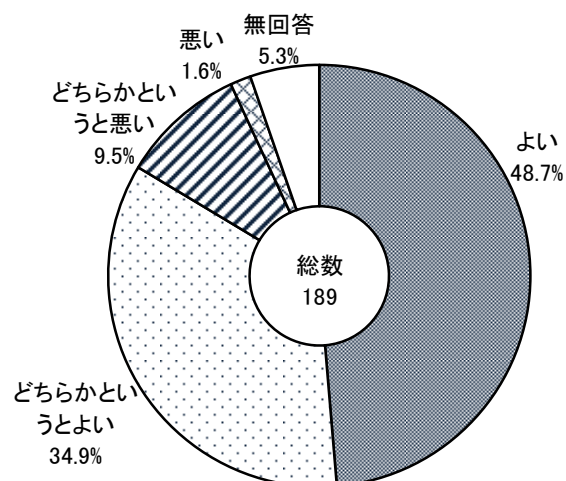
問 6. 介護が必要な家族の有無



(3) 健康状態

○健康状態の「よい」人は約49%、「どちらかというといよい」は約35%で、合わせて8割を超える人が健康状態は良好である。なお、「どちらかというとい悪い」と「悪い」は、合わせて1割程度にとどまっている。健康状態が良好とする割合（「よい」と「どちらかというといよい」の計）は、手帳所持者全体では約7割であり(p12 参照)、10ポイント以上上回っている。

問 7. 健康状態

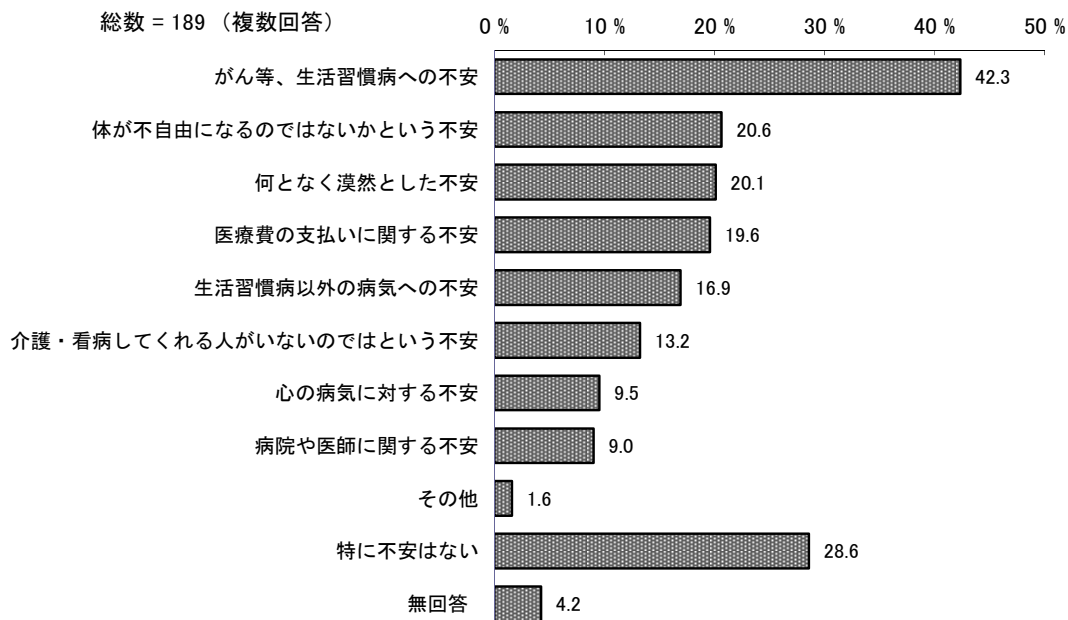


(4) 健康について不安を感じていること

○健康の不安については、全体では「がん等、生活習慣病への不安」が最も多い。

○年代別でみると、「体が不自由になるのではという不安」を挙げる割合は50歳以上で高くなっている。

問 8. 健康について不安を感じていること



問 8. 健康について不安を感じていること ×年代別

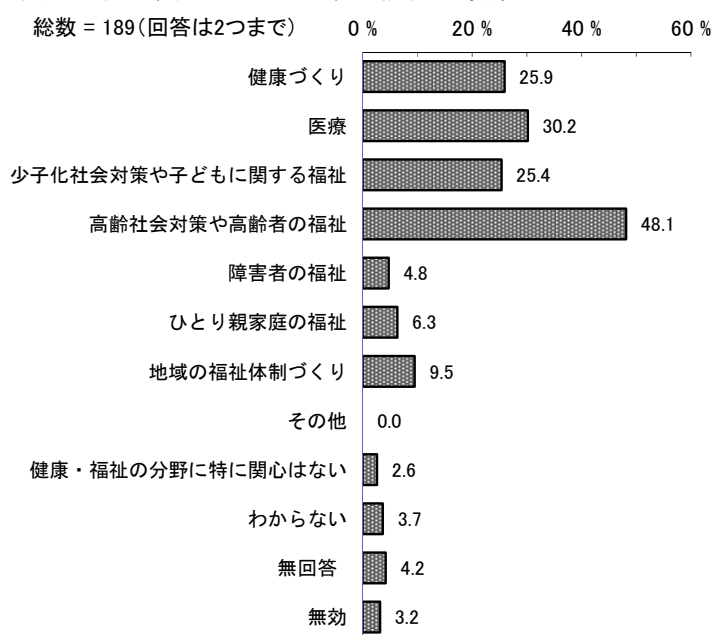
		全体	がん等、生活習慣病への不安	生活習慣病以外の病気への不安	心の病気に対する不安	体が不自由になるのではという不安	介護・看病してくれる人がいないのではという不安	病院や医師に関する不安	医療費の支払いに関する不安	何となく漠然とした不安	その他	特に不安はない	無回答
全体		189	80	32	18	39	25	17	37	38	3	54	8
		100.0	42.3	16.9	9.5	20.6	13.2	9.0	19.6	20.1	1.6	28.6	4.2
年代	16～19歳	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
	20～29歳	15	4	3	3	3	-	-	1	2	-	5	2
		100.0	26.7	20	20	20	-	-	6.7	13.3	-	33.3	13.3
	30～39歳	40	18	11	5	5	6	6	9	4	-	11	2
		100.0	45	27.5	12.5	12.5	15	15.0	22.5	10	-	27.5	5
	40～49歳	24	13	3	4	3	4	3	8	6	1	6	-
		100.0	54.2	12.5	16.7	12.5	16.7	12.5	33.3	25	4.2	25	-
年代	50～59歳	31	13	4	3	9	7	4	5	6	1	11	-
		100.0	41.9	12.9	9.7	29	22.6	12.9	16.1	19.4	3.2	35.5	-
	60～64歳	14	9	4	2	3	2	1	6	2	-	1	-
		100.0	64.3	28.6	14.3	21.4	14.3	7.1	42.9	14.3	-	7.1	-
年代	65～74歳	43	14	5	-	10	3	2	5	13	-	14	2
		100.0	32.6	11.6	-	23.3	7	4.7	11.6	30.2	-	32.6	4.7
年代	75歳以上	19	9	2	1	6	3	1	3	5	1	4	1
		100.0	47.4	10.5	5.3	31.6	15.8	5.3	15.8	26.3	5.3	21.1	5.3

(5) 特に関心がある健康・福祉の領域

○全体では「高齢者対策や高齢者の福祉」についての関心が最も高く、約50%となっている。一方、障害者の福祉についての関心は、5%で相対的に低くなっている。

問 9. 特に関心がある健康・福祉の領域

総数 = 189(回答は2つまで)



○男女別にみると、女性より男性で、「少子化社会対策や子供に関する福祉」を挙げる割合が高くなっている。

○障害を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層では大きな差はない。

問 9. 関心がある健康・福祉分野 × 性別・年代別・支援活動別

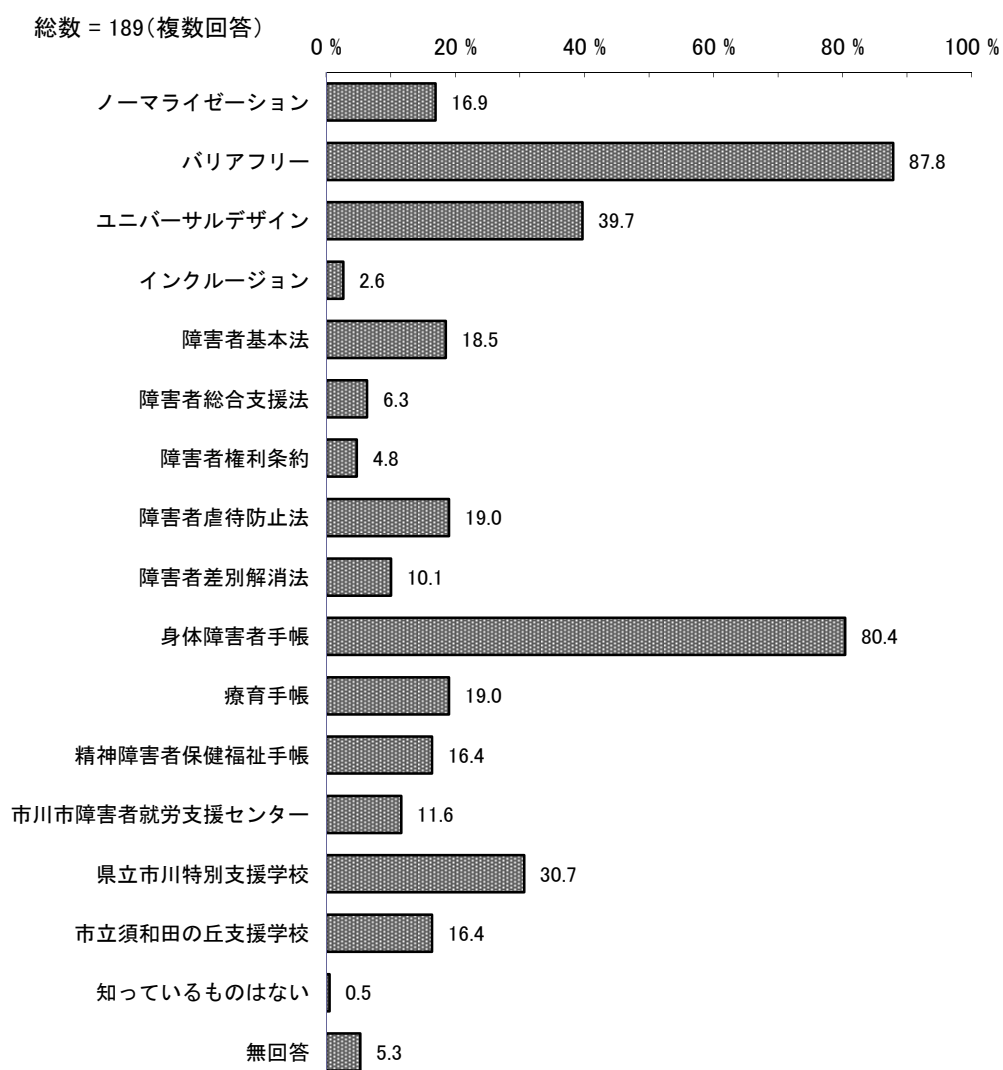
	全体	健康づくり	医療	少子化社会対策や子どもに関する福祉	高齢社会対策や高齢者の福祉	障害者の福祉	ひとり親家庭の福祉	地域の福祉体制づくり	その他	健康・福祉の分野に特に関心はない	わからない	無回答	無効
全体	189 100.0	49 25.9	57 30.2	48 25.4	91 48.1	9 4.8	12 6.3	18 9.5	-	5 2.6	7 3.7	8 4.2	6 3.2
性別	男性	82 100.0	21 25.6	24 29.3	26 31.7	39 47.6	3 3.7	3 6.1	-	4 4.9	2 2.4	2 2.4	3 3.7
	女性	102 100.0	28 27.5	31 30.4	21 20.6	49 48.0	5 4.9	9 8.8	13 12.7	1 1.0	5 4.9	5 4.9	3 2.9
	無回答	5 100.0	-	2 40.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	-	-	-	-	1 20.0	-
年代	16～19歳	3 100.0	-	-	-	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	1 33.3	-
	20～29歳	15 100.0	5 33.3	3 20.0	8 53.3	2 13.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7	-	1 6.7	2 13.3	-
	30～39歳	40 100.0	6 15.0	15 37.5	18 45.0	14 35.0	3 7.5	1 2.5	1 2.5	1 2.5	1 2.5	2 5.0	4 10.0
	40～49歳	24 100.0	4 16.7	9 37.5	9 37.5	9 37.5	1 4.2	3 12.5	5 20.8	-	2 8.3	-	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	12 38.7	12 38.7	2 6.5	15 48.4	-	2 6.5	3 9.7	2 6.5	1 3.2	-	1 3.2
	60～64歳	14 100.0	6 42.9	3 21.4	2 14.3	11 78.6	-	1 7.1	1 7.1	1 7.1	-	-	-
	65～74歳	43 100.0	11 25.6	14 32.6	7 16.3	28 65.1	3 7.0	1 2.3	3 7.0	-	1 2.3	2 4.7	-
	75歳以上	19 100.0	5 26.3	1 5.3	2 10.5	12 63.2	1 5.3	3 15.8	3 15.8	1 5.3	-	1 5.3	-
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	14 25.5	18 32.7	22 40.0	23 41.8	1 1.8	2 3.6	6 10.9	2 3.6	1 1.8	4 7.3	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	31 26.5	35 29.9	26 22.2	55 47.0	6 5.1	10 8.5	10 8.5	3 2.6	5 4.3	3 2.6	4 3.4
	無回答	16 100.0	4 25.0	4 25.0	-	13 81.3	2 12.5	-	2 12.5	-	-	1 6.3	-
	無効	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-

3 日常生活における障害者との関わりについて

(1) 知っている言葉

- 障害者福祉に関連する用語（15の語句）のなかで知っているものとしては、全体では「バリアフリー」が88%と高い割合になっており、ほぼ定着していると言える。
- 法律用語に関しては、「障害者虐待防止法」を挙げた割合が19%と比較的高くなっている。
- 「身体障害者手帳」は80%を超え認知度が高いことが分かるが、一方で「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」はともに全体では10%台となっており、十分に知られていない。
- 学校等においては、「県立市川特別支援学校」が31%と比較的知られているが、他は10%台と十分知られていない。

問 10. 知っている言葉



○年代別に見ると、「ノーマライゼーション」、「ユニバーサルデザイン」など、外来の用語は若年層で認知度が高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、全般的に「ある」層が高い割合になっている。特に法律用語に関して「ある」層と「ない」層の差が大きくなっている。

問 10. 知っている言葉 ×性別・年代別・支援活動別

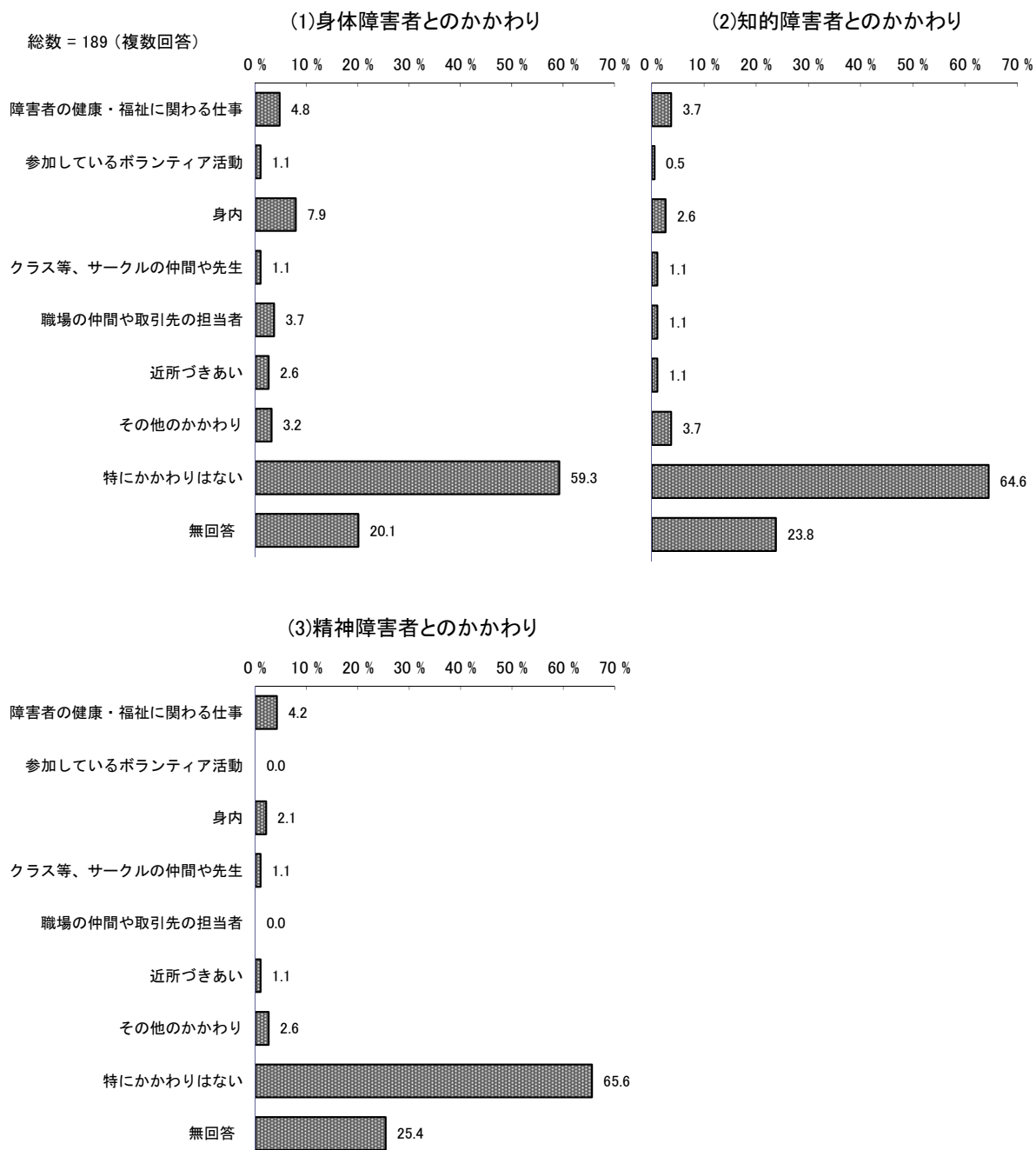
		全 体	ノ ー マ ライ ゼー シ ョ ン	バ リ ア フ リ	ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン	イ ン ク ル ー ジ ョ ン	障 害 者 基 本 法	障 害 者 総 合 支 援 法	障 害 者 権 利 条 約	障 害 者 虐 待 防 止 法	障 害 者 差 別 解 消 法	身 体 障 害 者 手 帳	療 育 手 帳	精 神 障 害 者 保 健 福 祉 手 帳	就 労 支 援 セ ン タ ー	市 立 市 川 特 別 支 援 学 校	市 立 須 和 田 の 丘 支 援 学 校	知 っ て い る も の は な い	無 回 答
全体		189 100.0	32 16.9	166 87.8	75 39.7	5 2.6	35 18.5	12 6.3	9 4.8	36 19.0	19 10.1	152 80.4	36 19.0	31 16.4	22 11.6	58 30.7	31 16.4	1 0.5	10 5.3
性別	男性	82 100.0	14 17.1	73 89.0	30 36.6	2 2.4	15 18.3	7 8.5	4 4.9	15 18.3	10 12.2	63 76.8	9 11.0	8 9.8	9 11.0	20 24.4	8 9.8	1 1.2	2 2.4
	女性	102 100.0	17 16.7	89 87.3	44 43.1	3 2.9	20 19.6	5 4.9	5 4.9	21 20.6	9 8.8	85 83.3	27 26.5	22 21.6	13 12.7	37 36.3	23 22.5	-	7 6.9
	無回答	5 100.0	1 20.0	4 80.0	1 20.0	-	-	-	-	-	-	4 80.0	-	1 20.0	-	1 20.0	-	-	1 20.0
年代	16～19歳	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	-	-	-	2 66.7	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	5 33.3	15 100.0	11 73.3	-	6 40.0	2 13.3	3 20.0	3 20.0	3 20.0	14 93.3	1 6.7	3 20.0	-	2 13.3	-	-	-
	30～39歳	40 100.0	8 20.0	40 100.0	19 47.5	2 5.0	8 20.0	3 7.5	2 5.0	10 25.0	2 5.0	36 90.0	13 32.5	5 12.5	1 2.5	11 27.5	3 7.5	-	-
	40～49歳	24 100.0	5 20.8	23 95.8	13 54.2	1 4.2	2 8.3	-	1 4.2	5 20.8	1 4.2	22 91.7	8 33.3	4 16.7	2 8.3	9 37.5	9 37.5	-	-
	50～59歳	31 100.0	5 16.1	27 87.1	18 58.1	1 3.2	5 16.1	3 9.7	1 3.2	3 9.7	5 16.1	26 83.9	6 19.4	5 16.1	5 16.1	13 41.9	9 29.0	1 3.2	1 3.2
	60～64歳	14 100.0	-	13 92.9	3 21.4	-	2 14.3	-	-	1 7.1	1 7.1	11 78.6	1 7.1	1 7.1	2 14.3	5 35.7	2 14.3	-	-
	65～74歳	43 100.0	5 11.6	34 79.1	9 20.9	1 2.3	8 18.6	3 7.0	2 4.7	11 25.6	6 14.0	32 74.4	7 16.3	12 27.9	11 25.6	13 30.2	6 14.0	-	5 11.6
	75歳以上	19 100.0	2 10.5	12 63.2	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3	10 52.6	-	1 5.3	1 5.3	3 15.8	2 10.5	-	4 21.1
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	14 25.5	50 90.9	26 47.3	3 5.5	18 32.7	7 12.7	7 12.7	17 30.9	10 18.2	47 85.5	16 29.1	16 29.1	7 12.7	28 50.9	12 21.8	-	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	17 14.5	105 89.7	46 39.3	2 1.7	15 12.8	4 3.4	1 0.9	14 12.0	6 5.1	94 80.3	18 15.4	13 11.1	13 11.1	29 24.8	16 13.7	1 0.9	4 3.4
	無回答	16 100.0	1 6.3	10 62.5	2 12.5	-	2 12.5	1 6.3	1 6.3	4 25.0	3 18.8	10 62.5	2 12.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3	2 12.5	-	4 25.0
	無効	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-

(2) 障害のある方とのかかわり

○障害のある方とのかかわりは、全体で見ると、3 障害を通じて「特にかかわりはない」が半数以上と高い割合になっている。

○身体障害者とのかかわりでは、「身内」を挙げる割合が、他の障害に比べ高い割合になっている。

問 11. 障害のある方とのかかわり



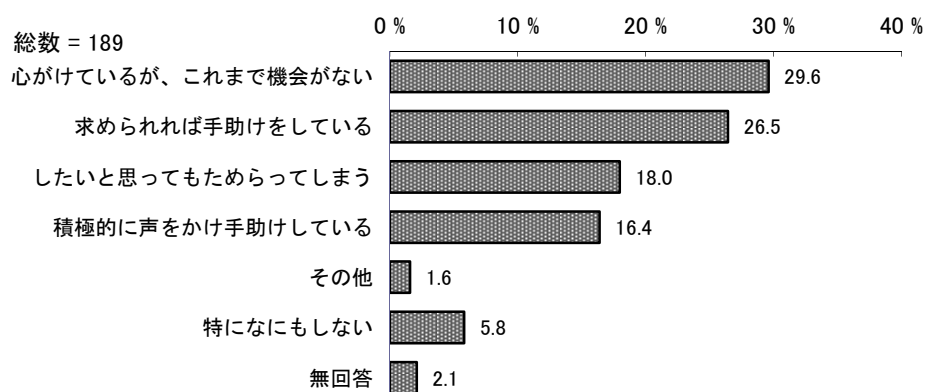
(3) 困っている障害者をみかけたときの手助け

○全体では、「心がけているが、これまで機会がない」(約 30%)、「求められれば手助けをしている」(約 27%) が高い。

○年代別に見ると、「積極的に声をかけ手助けしている」割合は、60 歳以上で高く、「したいと思ってもためらってしまう」割合は、30 歳代、40 歳代で高い。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層の方が、「ない」層と比較すると「積極的に声をかけて手助けしている」、「求められれば手助けしている」割合が高い。

問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け



問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け ×年代別・支援活動別

		全体	積極的に声をかけ手助けしている	求められれば手助けしている	したいと思ってもためらってしまう	心がけているが、これまで機会がない	その他	特になにもしない	無回答
全体		189 100.0	31 16.4	50 26.5	34 18.0	56 29.6	3 1.6	11 5.8	4 2.1
年代	16～19歳	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-
	20～29歳	15 100.0	2 13.3	5 33.3	2 13.3	3 20.0	-	3 20.0	-
	30～39歳	40 100.0	4 10.0	13 32.5	11 27.5	8 20.0	2 5.0	2 5.0	-
	40～49歳	24 100.0	4 16.7	4 16.7	7 29.2	9 37.5	-	-	-
	50～59歳	31 100.0	5 16.1	9 29.0	5 16.1	11 35.5	-	1 3.2	-
	60～64歳	14 100.0	3 21.4	5 35.7	2 14.3	4 28.6	-	-	-
	65～74歳	43 100.0	10 23.3	10 23.3	5 11.6	12 27.9	1 2.3	2 4.7	3 7.0
	75歳以上	19 100.0	3 15.8	3 15.8	1 5.3	9 47.4	-	2 10.5	1 5.3
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	11 20.0	23 41.8	7 12.7	11 20.0	-	1 1.8	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	17 14.5	25 21.4	23 19.7	38 32.5	2 1.7	10 8.5	2 1.7
	無回答	16 100.0	2 12.5	2 12.5	4 25.0	7 43.8	1 6.3	-	-
	無効	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-

4 余暇活動や障害者を支援する活動について

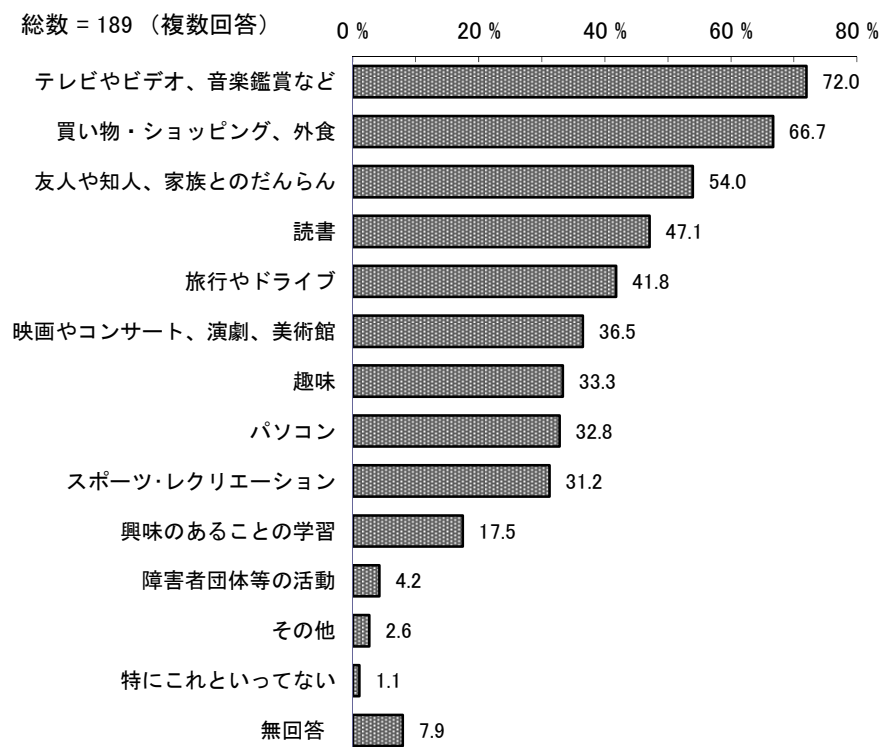
(1) 自由時間の過ごし方

① 現在やっていること

○自由時間の過ごし方として、現在やっていることは全体では「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」が72%で最も高く、ついで「買い物・ショッピング、外食」も60%を超えている。

○全体的に手帳非所持者の方が手帳所持者より高い割合となっている。特に「買い物・ショッピング、外食」「友人や知人、家族とのだんらん」「旅行やドライブ」においては20ポイント以上の差が開いている。

問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること



問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること－手帳所持者との比較－

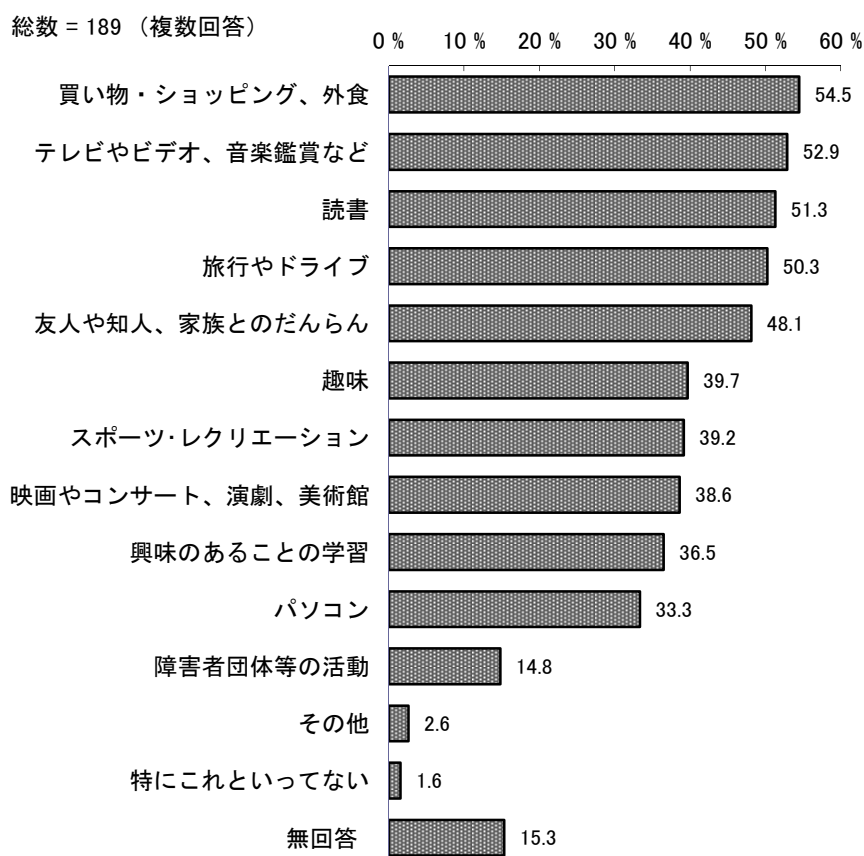
	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞	買い物・ショッピング、外食	読書	友人や知人、家族とのだんらん	パソコン	旅行やドライブ	趣味	映画やコンサート、演劇、美術館	スポーツ・レクリエーション	興味のあることの学習	障害者団体等の活動	その他	特にこれといってない	無回答
手帳所持者	1377 100.0	875 63.5	553 40.2	513 37.3	473 34.4	300 21.8	280 20.3	263 19.1	240 17.4	172 12.5	160 11.6	69 5.0	52 3.8	105 7.6	290 21.1
手帳非所持者	189 100.0	136 72.0	126 66.7	89 47.1	102 54.0	62 32.8	79 41.8	63 33.3	69 36.5	59 31.2	33 17.5	8 4.2	5 2.6	2 1.1	15 7.9

② 今後も続けたいこと、新しくやりたいこと

○自由時間の過ごし方として、今後も続けたい、新しくやりたいこととしては、全体では、「買い物・ショッピング、外食」、「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」、「読書」、「旅行やドライブ」が 50%を超えて高くなっている。

○手帳非所持者と手帳所持者とでは、現状の参加率と同様大きな差は見られないが、希望率としては、20～30 ポイントの差が見られる。

問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいこと



問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいこと－手帳所持者との比較－

	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞など	読書	パソコン	趣味	友人や知人、家族とのだんらん	スポーツ・レクリエーション	障害者団体等の活動	買い物・ショッピング、外食	興味のあることの学習	映画やコンサート、演劇、美術館	旅行やドライブ	その他	特にこれといってない	無回答
手帳所持者	1377 100.0	499 36.2	333 24.2	258 18.7	259 18.8	370 26.9	199 14.5	105 7.6	378 27.5	209 15.2	266 19.3	315 22.9	37 2.7	71 5.2	597 43.4
手帳非所持者	189 100.0	100 52.9	97 51.3	63 33.3	75 39.7	91 48.1	74 39.2	28 14.8	103 54.5	69 36.5	73 38.6	95 50.3	5 2.6	3 1.6	29 15.3

(2) 障害者支援活動で参加したことのあるもの

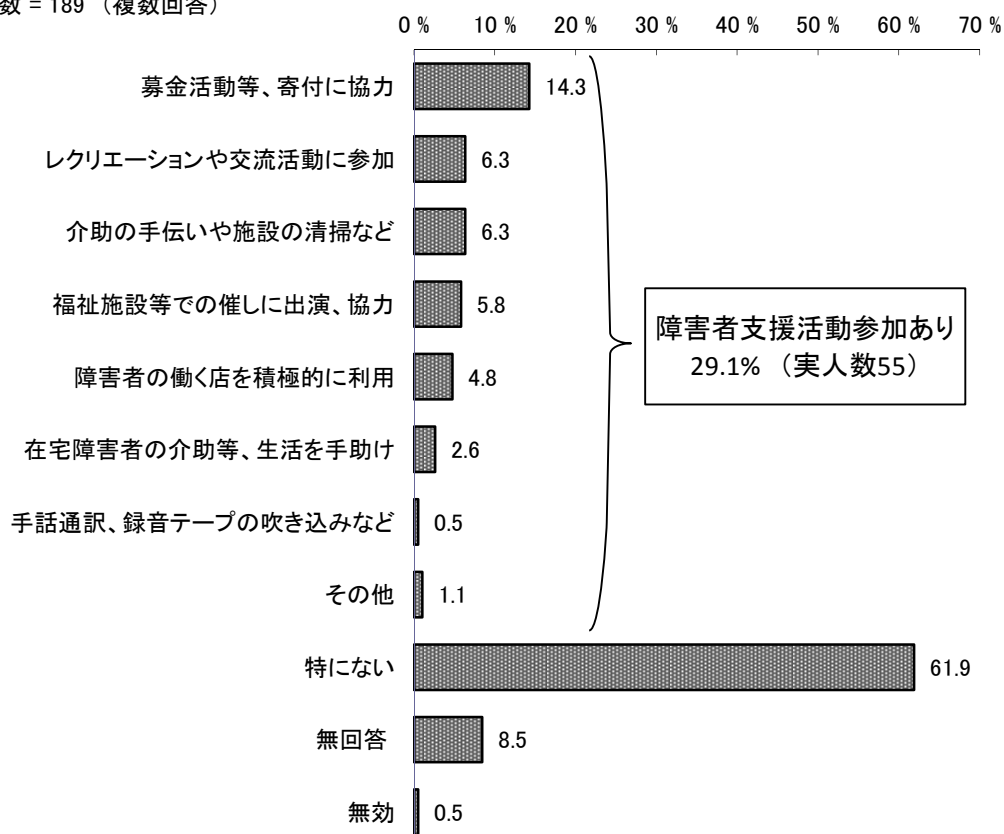
① 参加経験

○全体では、参加した活動が「特にない」とする割合が 62%と半数以上を占める。

○参加したことのある活動としては、「募金活動等、寄付に協力」が約 14%と最も高く、ついで「レクリエーションや交流活動に参加」、「介助の手伝いや施設の掃除」が約 6%と高くなっている。

問 14. 障害者支援活動①参加経験

総数 = 189 (複数回答)



○活動への参加者が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、男女別では女性の方が全体的に各活動へ参加している割合が高く、「募金活動等、寄付に協力」においては、10 ポイント以上高くなっている。

○また、年代別では「特にない」が 40 歳代と 50 歳代で全体より 10 ポイント以上高く、反対に 20 歳代で全般的に参加率が高くなっている。

問 14. 障害者支援活動①参加経験 ×性別・年代別

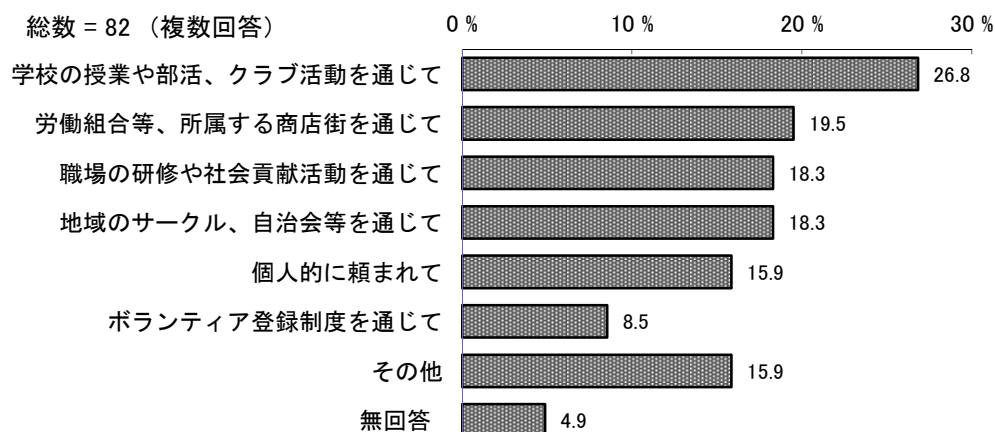
		全体	福祉施設等での催し に出演、協力	レクリエーションや 交流活動に参加	介助の手伝いや施設 の清掃など	在宅障害者の介助 等、生活を手助け	手話通訳、録音テー プの吹き込みなど	障害者の働く店を積 極的に利用	募金活動等、寄 付に協力	その他	特にない	無回答	無効
全体		189 100.0	11 5.8	12 6.3	12 6.3	5 2.6	1 0.5	9 4.8	27 14.3	2 1.1	117 61.9	16 8.5	1 0.5
性別	男性	82 100.0	4 4.9	4 4.9	3 3.7	2 2.4	1 1.2	3 3.7	7 8.5	- -	57 69.5	7 8.5	- -
	女性	102 100.0	7 6.9	8 7.8	7 6.9	3 2.9	- -	6 5.9	19 18.6	2 2.0	58 56.9	9 8.8	1 1.0
	無回答	5 100.0	- -	- -	2 40.0	- -	- -	- -	1 20.0	- -	2 40.0	- -	- -
年代	16～19歳	3 100	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 33.3	- -	2 66.7	- -	- -
	20～29歳	15 100.0	3 20.0	2 13.3	2 13.3	1 6.7	- -	1 6.7	4 26.7	- -	8 53.3	- -	- -
	30～39歳	40 100.0	5 12.5	6 15.0	5 12.5	1 2.5	- -	3 7.5	6 15.0	1 2.5	24 60.0	- -	- -
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	1 4.2	1 4.2	1 4.2	- -	1 4.2	- -	1 4.2	18 75.0	1 4.2	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	2 6.5	1 3.2	2 6.5	- -	- -	1 3.2	4 12.9	- -	23 74.2	1 3.2	- -
	60～64歳	14 100.0	- -	- -	1 7.1	1 7.1	- -	2 14.3	3 21.4	- -	8 57.1	- -	- -
	65～74歳	43 100.0	- -	1 2.3	1 2.3	1 2.3	1 2.3	1 2.3	5 11.6	- -	25 58.1	9 20.9	- -
	75歳以上	19 100.0	- -	1 5.3	- -	- -	- -	- -	4 21.1	- -	9 47.4	5 26.3	- -

② 参加形式

○障害者を支援する活動では、「学校の授業や部活、クラブ活動を通じて」が最も多く、ついで、「労働組合等、所属する商店街を通じて」「職場の研修や社会貢献活動を通じて」「地域のサークル、自治会等を通じて」が20%弱となっている。

○年代別では参加者が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、50歳代以下では「学校の授業やクラブ活動を通じて」「職場の研修や社会貢献活動を通じて」が多く、60歳以上では、「地域のサークル、自治会等を通じて」が多くなっている。

問 14-1. 障害者支援活動②参加形式



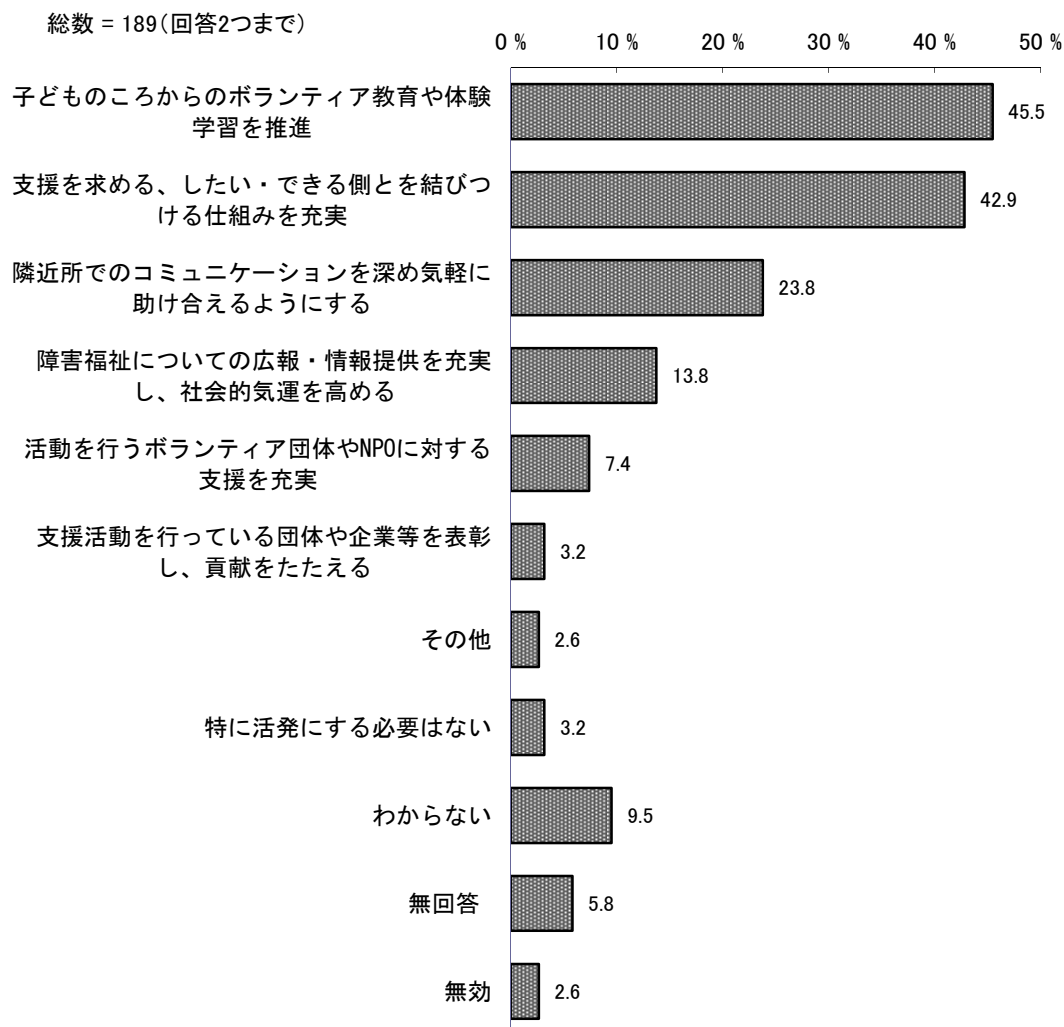
問 14-1. 障害者支援活動②参加形式 ×性別・年代別

		合計	学校の授業や 部活、クラブ 活動を通じて	職場の研修や 社会貢献活動 を通じて	労働組合等、 所属する商店 街を通じて	地域のサーク ル、自治会等 を通じて	ボランティ ア登録制度を 通じて	個人的に頼 まれて	その他	無回答
全体		82 100.0	22 26.8	15 18.3	16 19.5	15 18.3	7 8.5	13 15.9	13 15.9	4 4.9
性別	男性	24 100.0	7 29.2	5 20.8	1 4.2	7 29.2	1 4.2	2 8.3	5 20.8	1 4.2
	女性	55 100.0	14 25.5	9 16.4	15 27.3	8 14.5	5 9.1	11 20.0	8 14.5	3 5.5
	無回答	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	-
年代	16～19歳	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -
	20～29歳	13 100.0	9 69.2	4 30.8	-	2 15.4	-	- -	- -	- -
	30～39歳	26 100.0	7 26.9	7 26.9	9 34.6	5 19.2	3 11.5	4 15.4	5 19.2	- -
	40～49歳	10 100.0	1 10.0	- -	5 50.0	- -	- -	4 40.0	2 20.0	- -
	50～59歳	10 100.0	5 50.0	3 30.0	- -	- -	- -	- -	2 20.0	- -
	60～64歳	7 100.0	- -	- -	1 14.3	4 57.1	- -	2 28.6	1 14.3	1 14.3
	65～74歳	10 100.0	- -	1 10.0	1 10.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0
	75歳以上	5 100.0	- -	- -	- -	1 20.0	- -	1 20.0	1 20.0	2 40.0

(3) 障害者支援活動を活発にするために必要なこと

○障害者支援活動を活発にするために必要なこととして、全体では、「子供のころからボランティア教育や体験学習を推進」が約46%、ついで、「支援を求める、したい・できる側とを結びつける仕組みを充実」が約43%と、40%を超え高くなっている。

問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと



○男女別では、大きな回答傾向の差は見られない。年代別では、40 歳代で「子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進」が約 75%と、全体より 30 ポイントも高くなっている。また、65 歳以上で「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」が 30%を超え高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層は、「ない」層と比較すると、「活動を行うボランティア団体や NPO に対する支援を充実」、「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」を挙げる割合が高くなっている。

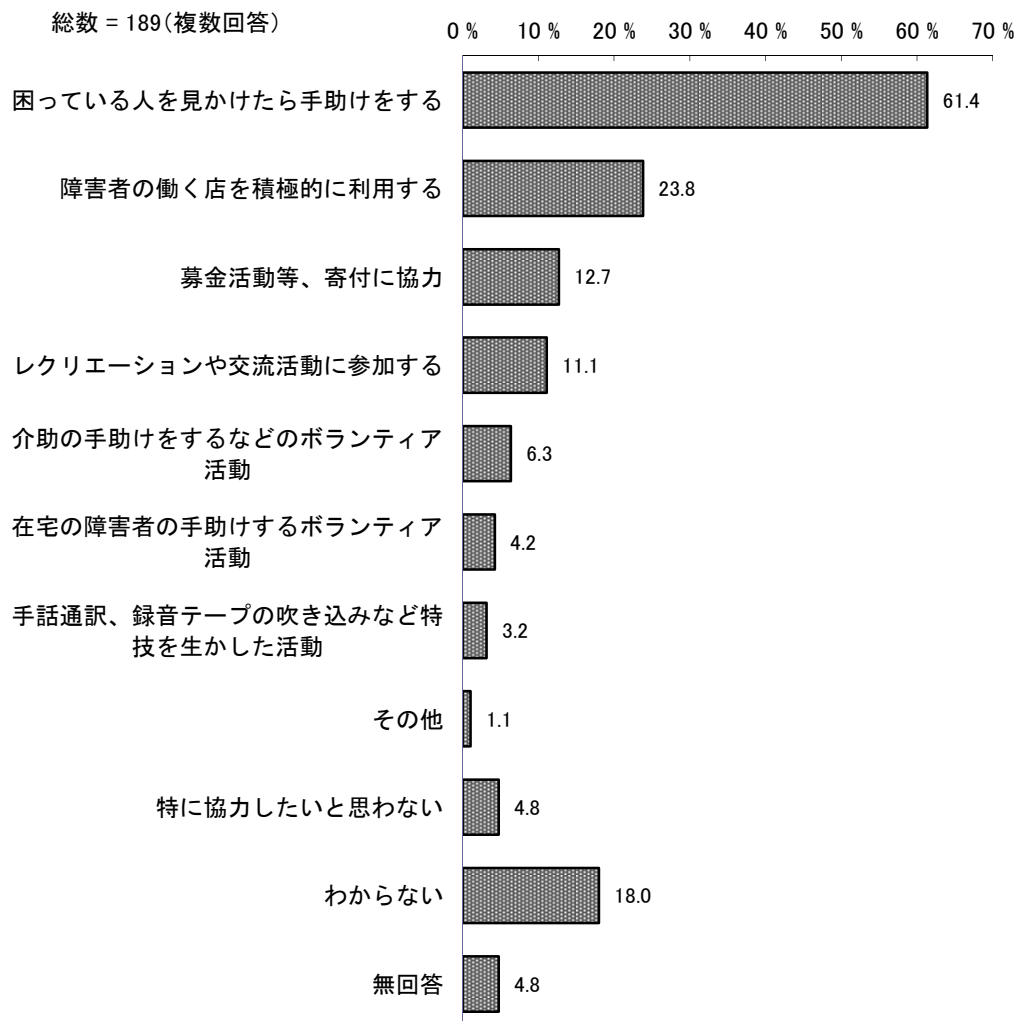
問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと ×年代別・支援活動別

		全体	支援を求め、つづける仕組み・できる側	子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進	支援活動を行っている団体や企業等を表彰し、貢献をたたえる	活動を行うボランティア団体や NPO に対する支援を充実	障害福祉についての広報・情報提供を充実し、社会的気運を高める	隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする	その他	特に活発にする必要はない	わからない	無回答	無効
全体		189 100.0	81 42.9	86 45.5	6 3.2	14 7.4	26 13.8	45 23.8	5 2.6	6 3.2	18 9.5	11 5.8	5 2.6
年代	16～19歳	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	7 46.7	7 46.7	-	3 20.0	2 13.3	3 20.0	-	1 6.7	2 13.3	-	-
	30～39歳	40 100.0	23 57.5	18 45.0	2 5.0	6 15.0	5 12.5	7 17.5	3 7.5	1 2.5	1 2.5	-	2 5.0
	40～49歳	24 100.0	11 45.8	18 75.0	1 4.2	1 4.2	5 20.8	5 20.8	1 4.2	-	-	1 4.2	-
	50～59歳	31 100.0	13 41.9	12 38.7	1 3.2	-	4 12.9	3 9.7	1 3.2	1 3.2	5 16.1	2 6.5	2 6.5
	60～64歳	14 100.0	7 50.0	5 35.7	-	-	2 14.3	2 14.3	-	1 7.1	2 14.3	1 7.1	1 7.1
	65～74歳	43 100.0	14 32.6	19 44.2	-	2 4.7	5 11.6	18 41.9	-	2 4.7	5 11.6	3 7.0	-
	75歳以上	19 100.0	4 21.1	6 31.6	1 5.3	2 10.5	2 10.5	6 31.6	-	-	3 15.8	4 21.1	-
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	24 43.6	24 43.6	-	7 12.7	9 16.4	15 27.3	4 7.3	1 1.8	2 3.6	6 10.9	1 1.8
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	53 45.3	58 49.6	5 4.3	6 5.1	17 14.5	24 20.5	1 0.9	5 4.3	13 11.1	-	4 3.4
	無回答	16 100.0	4 25.0	4 25.0	1 6.3	1 6.3	-	6 37.5	-	-	3 18.8	4 25.0	-
	無効	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-

(4) 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向

○今後、どのような形で障害者支援活動に協力したいかについては、「困っている人を見かけたら手助けする」が全体の6割を占めている。ついで、「障害者の働く店を積極的に利用する」が約24%、「募金活動等、寄付に協力」が約13%と続いている。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向



○男女別では、「障害者の働く店を積極的に利用する」、「募金活動等、寄付に協力する」、「困っている人を見かけたら手助けをする」が女性の方が 10 ポイント程度高くなっている。年代別では大きな回答の差は見られない。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、「ある」層は、一般的に今後の参加意向が高く、支援活動への参加を高めるためには、実際に活動を体験することが重要であることを示唆している。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向 ×性別・年代別・支援活動別

		全体	介助の ボランティア をするなどの 活動	在宅の 障害者の 手助けする 活動	レクリエーション や交流活 動に参加する	手話通訳、録音 テープの吹 き込みなど 活動	障害者の 働く店を積 極的に利 用する	募金活動等、 寄付に協力	困っている 人を見かけ たら手助け をする	その他	特に協 力したい と思わな い	わから ない	無回 答
全体		189 100.0	12 6.3	8 4.2	21 11.1	6 3.2	45 23.8	24 12.7	116 61.4	2 1.1	9 4.8	34 18.0	9 4.8
性別	男性	82 100.0	6 7.3	5 6.1	11 13.4	4 4.9	14 17.1	6 7.3	47 57.3	- -	7 8.5	17 20.7	5 6.1
	女性	102 100.0	5 4.9	2 2.0	9 8.8	2 2.0	30 29.4	18 17.6	67 65.7	2 2.0	2 2.0	15 14.7	3 2.9
	無回答	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	- -	1 20.0	- -	2 40.0	- -	- -	2 40.0	1 20.0
年代	16～19歳	3 100.0	- -	- -	- -	- -	1 33.3	1 33.3	- -	- -	1 33.3	- -	- -
	20～29歳	15 100.0	2 13.3	1 6.7	3 20.0	- -	1 6.7	2 13.3	8 53.3	1 6.7	1 6.7	3 20.0	- -
	30～39歳	40 100.0	3 7.5	- -	8 20.0	2 5.0	9 22.5	6 15.0	26 65.0	- -	- -	7 17.5	- -
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	2 8.3	3 12.5	2 8.3	12 50.0	1 4.2	18 75.0	1 4.2	1 4.2	4 16.7	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	1 3.2	- -	3 9.7	2 6.5	7 22.6	6 19.4	19 61.3	- -	1 3.2	7 22.6	1 3.2
	60～64歳	14 100.0	3 21.4	1 7.1	1 7.1	- -	6 42.9	3 21.4	8 57.1	- -	1 7.1	1 7.1	- -
	65～74歳	43 100.0	1 2.3	3 7.0	2 4.7	- -	6 14.0	4 9.3	26 60.5	- -	4 9.3	8 18.6	4 9.3
	75歳以上	19 100.0	1 5.3	1 5.3	1 5.3	- -	3 15.8	1 5.3	11 57.9	- -	- -	4 21.1	3 15.8
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	17 30.9	7 12.7	27 49.1	- -	29 52.7	25 45.5	43 78.2	4 7.3	- -	7 12.7	3 5.5
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	3 2.6	3 2.6	5 4.3	6 5.1	26 22.2	8 6.8	77 65.8	- -	8 6.8	25 21.4	1 0.9
	無回答	16 100.0	- -	- -	- -	- -	1 6.3	- -	7 43.8	1 6.3	- -	3 18.8	5 31.3
	無効	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -

5 障害者福祉の情報について

(1) 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心

① 関心の程度

○障害のある方の問題や障害者福祉について、全体では「ある程度関心がある」が約 44%と最も高い割合を占めており、「非常に関心がある」を含めると全体の約 47%を占める。

○男女別では、全体的にほとんど差は見られない。年代別では、40 歳代が全体より 10 ポイント以上高く、30 歳代が全体より 10 ポイント程度低い。

○障害者を支援する活動に参加したこと「ある」層の方が、「ない」層より「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合が 20 ポイント以上高い。

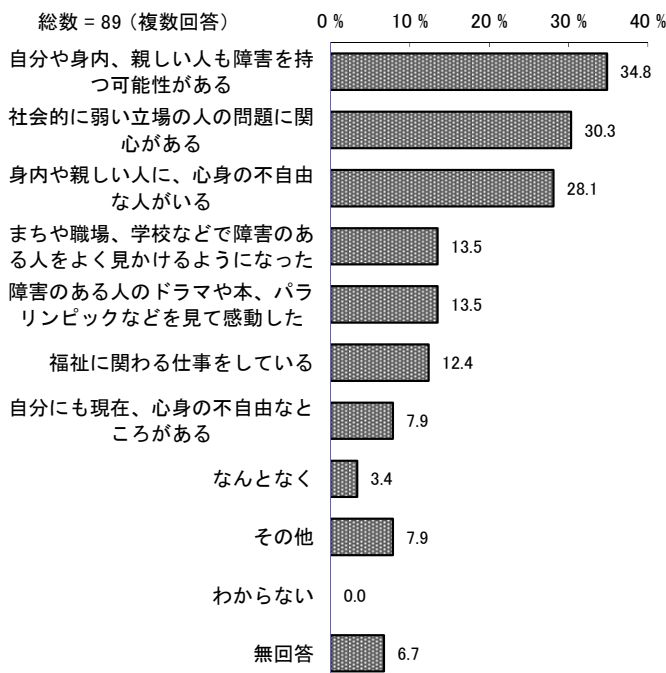
問 17. 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心①関心の程度×年代別・支援活動別

		合計	非常に 関心がある	ある 程度関心 がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	どちらとも いえない	わからない	無回答	関心「非常に 関心がある」の 割合
全体		189 100.0	5 2.6	84 44.4	44 23.3	2 1.1	37 19.6	7 3.7	10 5.3	89 47.1
年代	16～19歳	3 100.0	— —	— —	2 66.7	1 33.3	— —	— —	— —	— —
	20～29歳	15 100.0	— —	7 46.7	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	1 6.7	7 46.7
	30～39歳	40 100.0	1 2.5	14 35.0	14 35.0	— —	11 27.5	— —	— —	15 37.5
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	13 54.2	2 8.3	— —	5 20.8	1 4.2	2 8.3	14 58.4
	50～59歳	31 100.0	1 3.2	13 41.9	7 22.6	— —	6 19.4	3 9.7	1 3.2	14 45.1
	60～64歳	14 100.0	1 7.1	6 42.9	4 28.6	— —	3 21.4	— —	— —	7 50.0
	65～74歳	43 100.0	1 2.3	22 51.2	7 16.3	— —	8 18.6	1 2.3	4 9.3	23 53.5
	75歳以上	19 100.0	— —	9 47.4	5 26.3	— —	2 10.5	1 5.3	2 10.5	9 47.4
	無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
支援活動	障害者支援活動 参加あり	55 100.0	2 3.6	32 58.2	11 20.0	— —	6 10.9	1 1.8	3 5.5	34 61.8
	障害者支援活動 参加なし	117 100.0	1 0.9	44 37.6	29 24.8	2 1.7	29 24.8	6 5.1	6 5.1	45 38.5
	無回答	16 100.0	2 12.5	7 43.8	4 25.0	— —	2 12.5	— —	1 6.3	9 56.3
	無効	1 100.0	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	1 100.0

② 関心を持っている理由やきっかけ

○前設問で「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」とした回答者が、障害者福祉に関心を持つようになった理由としては、「自分や身内、親しい人も障害を持つ可能性がある」「社会的に弱い立場の人の問題に関心がある」を挙げた割合が30%以上と高く、身近な問題に共感する人や社会意識の強い人が多い。

付問 17-1. 関心を持っている理由やきっかけ

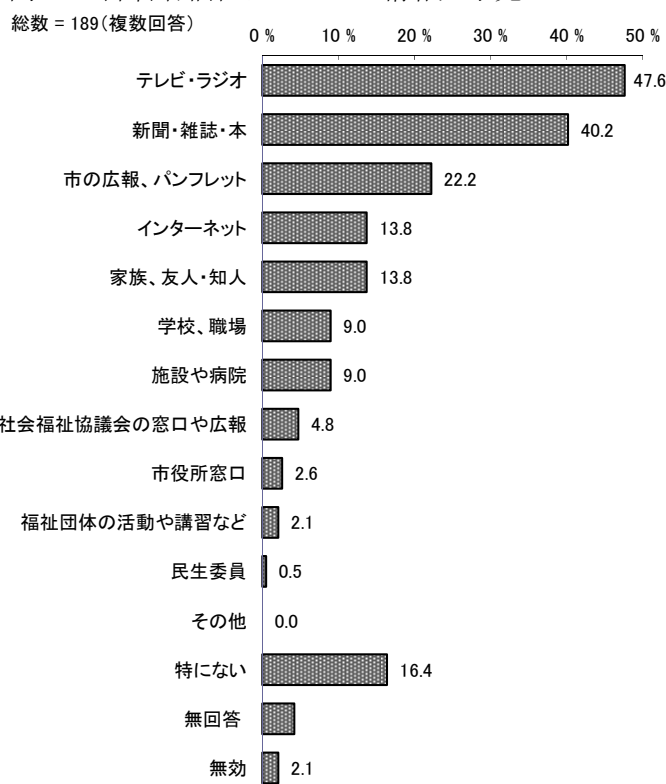


(2) 障害者福祉についての情報入手先

○障害者福祉の情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌・本」が40%を超え高く、マスコミが主体となっている。

○市の広報や、社会福祉協議会の窓口など公共機関の広報活動を挙げた割合は低くなっている。

問 18. 障害者福祉についての情報入手先

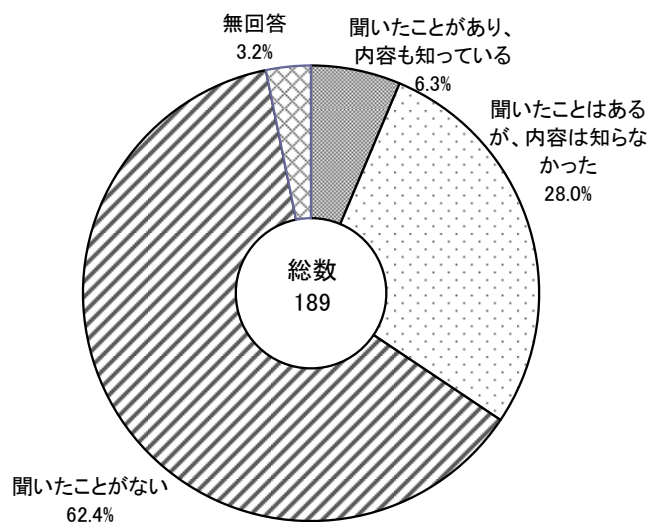


6 これからの障害福祉について

(1) 「障害者差別解消法」という法律について

- 「障害者差別解消法」という法律を、その内容とともに知っているかという問に対しては、「聞いたことがない」が約 62%と大半を占めている。
- 男女別では回答傾向に大きな差はなく、年代別では、50 歳代と 65 歳以上において「聞いたことがあるが、内容は知らなかった」を挙げる割合が高くなっている。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層においては、特に回答傾向に大きな差は見られない。

問 19. 「障害者差別解消法」という法律について



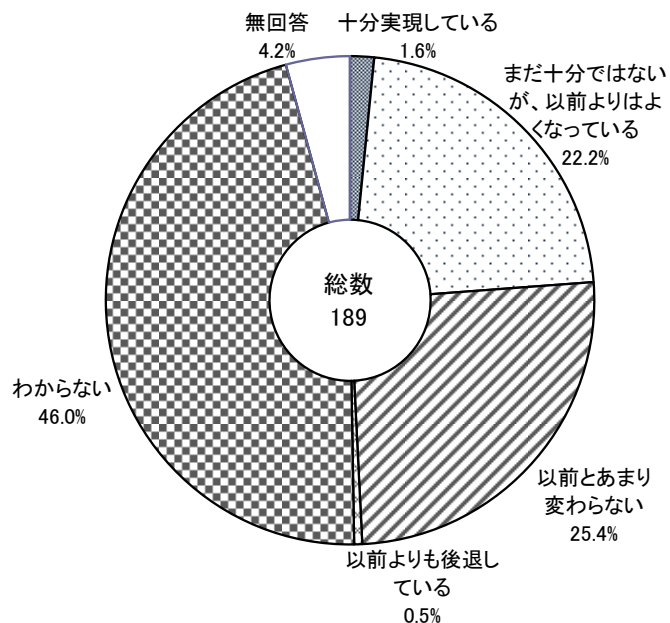
問 19. 「障害者差別解消法」という法律について ×年代別

		全体	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、内容は知らなかった	聞いたことがないこと	無回答
全体		189	12	53	118	6
		100.0	6.3	28.0	62.4	3.2
年代	16～19歳	3	—	—	3	—
		100.0	—	—	100.0	—
	20～29歳	15	2	—	12	1
		100.0	13.3	—	80.0	6.7
	30～39歳	40	2	4	34	—
		100.0	5.0	10.0	85.0	—
	40～49歳	24	2	4	18	—
		100.0	8.3	16.7	75.0	—
年代	50～59歳	31	1	13	16	1
		100.0	3.2	41.9	51.6	3.2
	60～64歳	14	—	3	11	—
		100.0	—	21.4	78.6	—
年代	65～74歳	43	4	19	18	2
		100.0	9.3	44.2	41.9	4.7
年代	75歳以上	19	1	10	6	2
		100.0	5.3	52.6	31.6	10.5

(2) 「障害者差別解消法」の実現状況

○全体では、「わからない」が約 46%と半数を占め、ついで「以前とあまり変わらない」が約 25%と高い。「十分実現している」と「まだ十分ではないが以前よりはよくなっている」を合わせると約 4人に1人がよくなっていると感じている。

問 20. 「障害者差別解消法」の実現状況



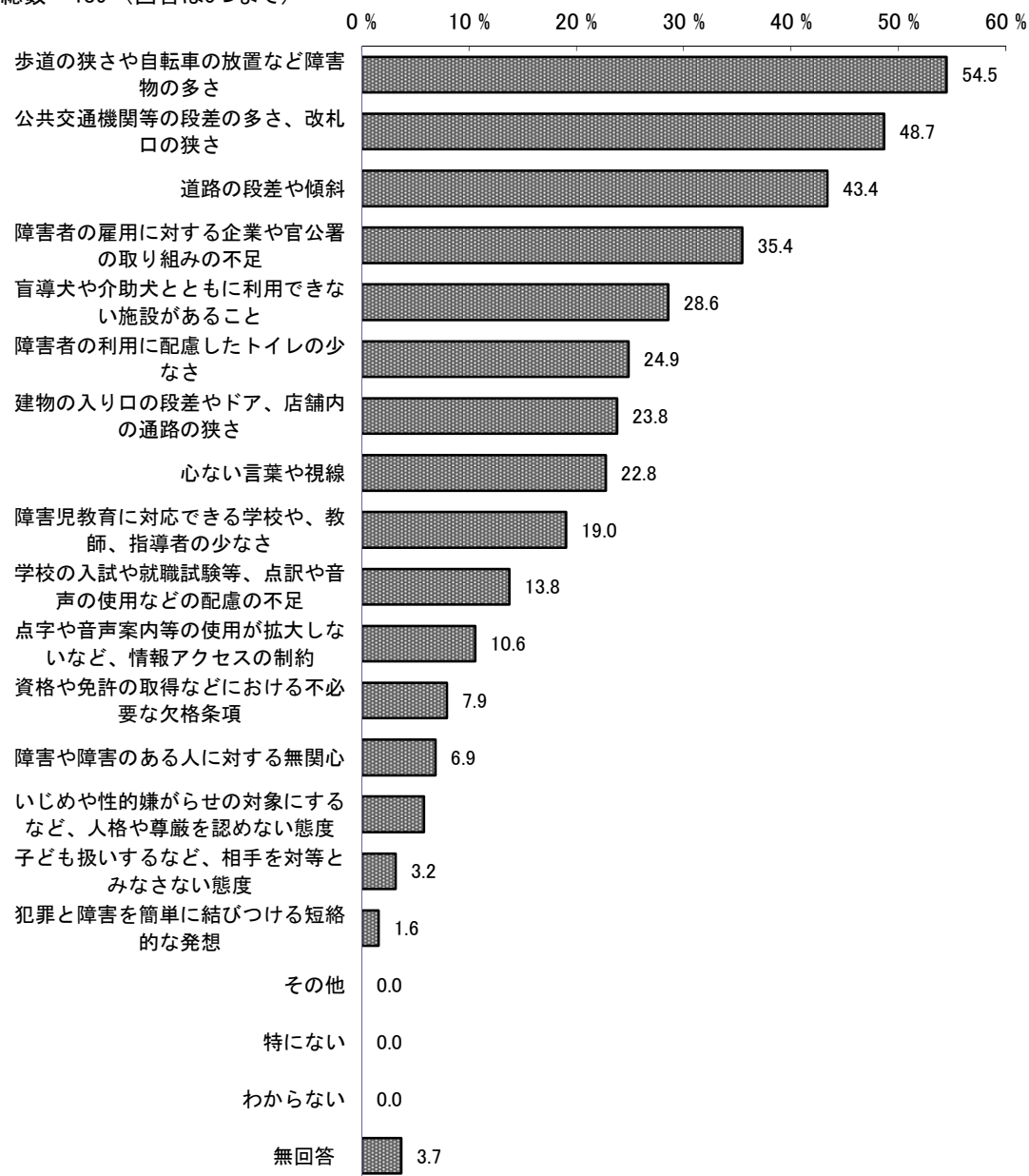
(3) 社会的障壁の除去における大きな課題

○社会的障壁の除去における大きな課題として、「歩道の狭さや自転車の放置など障害物の多さ」(約 55%)、「公共交通機関等の段差の多さ、改札口の狭さ」(約 49%)、「道路の段差や傾斜」(約 43%)と物理的な障壁が上位を占めている。

○また、「障害者の雇用に対する企業や官公署の取り組み不足」(約 35%)、「盲導犬や介助犬とともに利用できない施設があること」(約 29%)、「心ない言葉や視線」(約 23%)と社会的な制度や仕組み、人々の偏見等の課題を挙げる割合も多い。

問 21. 社会的障壁の除去における大きな課題

総数 = 189 (回答は5つまで)

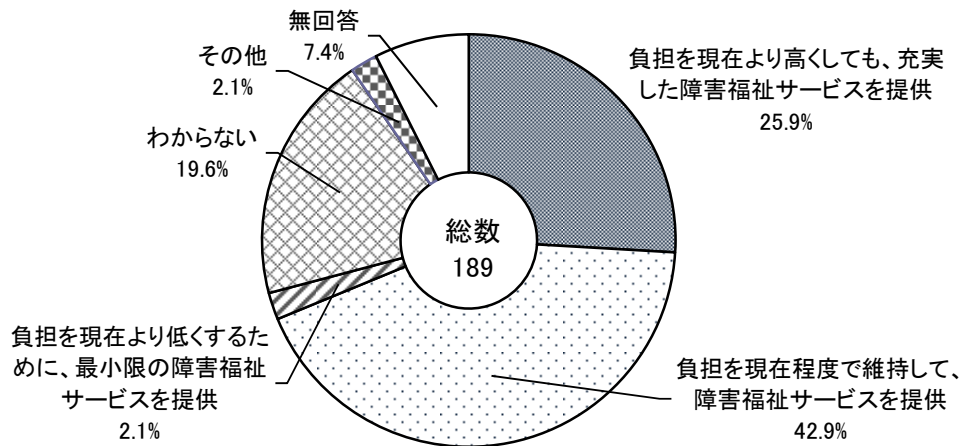


(4) 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス

○全体では、「負担を現在程度で維持し、障害福祉サービスを提供」が約 43%で最も高く、ついで、「負担を現在より高くし、充実した障害福祉サービスを提供」が約 26%となり、一方「負担をより低くするため、最小限の障害福祉サービスを提供」は約 2%と低く、現状以上の障害福祉サービスを望む割合が多くなった。

○年代別では、「負担を現在より高くし、充実したサービスを提供」とする割合が、40 歳代で約 33%、60 歳以上で 27～36%と高く、一方「負担を現状程度で維持し、障害福祉サービスを提供」は、20 歳代、30 歳代で高い。

問 22. 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス



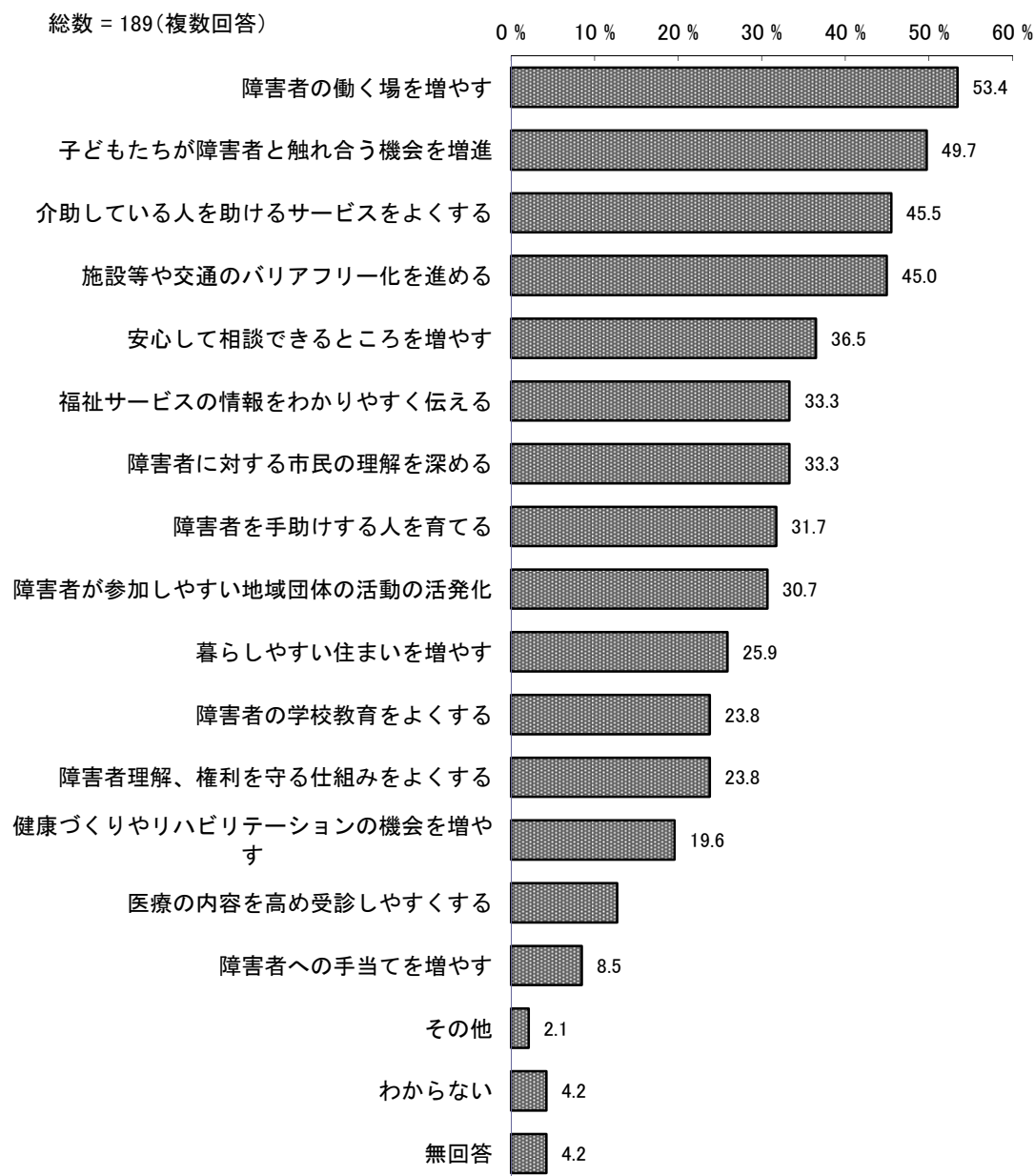
問 22. 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス ×年代別

		全体	負担を現在より高くし、充実したサービスを提供	負担を現在程度で維持し、障害福祉サービスを提供	負担を現在より低くするために、最小限の障害福祉サービスを提供	わからない	その他	無回答
全体		189	49	81	4	37	4	14
		100.0	25.9	42.9	2.1	19.6	2.1	7.4
年代	16～19歳	3	-	1	-	2	-	-
		100.0	-	33.3	-	66.7	-	-
	20～29歳	15	3	9	1	1	-	1
		100.0	20.0	60.0	6.7	6.7	-	6.7
	30～39歳	40	8	25	-	5	1	1
		100.0	20.0	62.5	-	12.5	2.5	2.5
	40～49歳	24	8	10	-	4	2	-
		100.0	33.3	41.7	-	16.7	8.3	-
	50～59歳	31	7	13	1	9	1	-
		100.0	22.6	41.9	3.2	29.0	3.2	-
	60～64歳	14	4	6	-	3	-	1
		100.0	28.6	42.9	-	21.4	-	7.1
	65～74歳	43	12	13	1	9	-	8
		100.0	27.9	30.2	2.3	20.9	-	18.6
	75歳以上	19	7	4	1	4	-	3
		100.0	36.8	21.1	5.3	21.1	-	15.8

(5) すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

○障害のある人もない人も自分らしく生きることのできる社会にするために、特に重要なこととして全体では、「障害者の働く場を増やす」(約 53%)、「子どもたちが障害者と触れ合う機会を増進」(約 50%)、「介助している人を助けるサービスをよくする」(約 46%)、「施設等や交通のバリアフリー化を進める」(約 45%) と高くなっている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと



○男女別では、それほど差は見られないが「福祉サービスの情報をわかりやすく伝える」が男性に比べ女性の方が 20 ポイント以上高くなっている。

○年代別で見ると、全体の上位の項目については大きな違いはないが、各項目では、「暮らしやすい住まいを増やす」は 20 歳代で約 60%と高く、「障害者を手助けする人を育てる」は 65 歳以上で 40%前後と高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層は、「ない」層と比べて、どの項目も大体回答率が高い傾向があり、障害者施策の全般的な充実が必要と考えていることがわかる。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

×性別・年代別・支援活動別

		全体	障害者を手助けする人を育てる	障害者が参加しやすい地域団体の活動の活発化	障害者の学校教育をよくする	障害者の働く場を増やす	障害者への手当を増やす	健康づくりやリハビリテーションの機会を増やす	医療の内容を高め受診しやすくする	福祉サービスの情報をわかりやすく伝える	安心して相談できるところを増やす	暮らしやすい住まいを増やす	介助している人を助けるサービスをよくする	施設等や交通のバリアフリー化を進める	障害者に対する市民の理解を深める	子どもたちが障害者と触れ合う機会を増進	障害者理解 権利を守る仕組みをよくする	その他	わからない	無回答
性別	全体	189 100.0	60 31.7	58 30.7	45 23.8	101 53.4	16 8.5	37 19.6	24 12.7	63 33.3	69 36.5	49 25.9	86 45.5	85 45.0	63 33.3	94 49.7	45 23.8	4 2.1	8 4.2	8 4.2
	男性	82 100.0	24 29.3	26 31.7	17 20.7	46 56.1	6 7.3	15 18.3	10 12.2	15 18.3	24 29.3	19 23.2	32 39.0	33 40.2	29 35.4	35 42.7	19 23.2	3 3.7	5 6.1	6 7.3
	女性	102 100.0	33 32.4	31 30.4	28 27.5	52 51.0	9 8.8	22 21.6	12 11.8	45 44.1	43 42.2	30 29.4	50 49.0	51 50.0	34 33.3	57 55.9	26 25.5	1 1.0	3 2.9	2 2.0
	無回答	5 100.0	3 60.0	1 20.0	-	3 60.0	1 20.0	-	2 40.0	3 60.0	2 40.0	-	4 80.0	1 20.0	-	2 40.0	-	-	-	-
年代	16～19歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	5 33.3	1 6.7	2 13.3	10 66.7	1 6.7	4 26.7	-	2 13.3	7 46.7	9 60.0	8 53.3	8 53.3	5 33.3	6 40.0	3 20.0	-	1 6.7	-
	30～39歳	40 100.0	7 17.5	10 25.0	16 40.0	23 57.5	4 10.0	9 22.5	9 22.5	13 32.5	13 32.5	11 27.5	21 52.5	22 55.0	14 35.0	20 50.0	13 32.5	2 5.0	1 2.5	-
	40～49歳	24 100.0	10 41.7	11 45.8	5 20.8	15 62.5	2 8.3	4 16.7	3 12.5	9 37.5	13 54.2	7 29.2	15 62.5	10 41.7	8 33.3	18 75.0	6 25.0	1 4.2	-	-
	50～59歳	31 100.0	9 29.0	10 32.3	9 29.0	17 54.8	3 9.7	5 16.1	3 9.7	15 48.4	12 38.7	10 32.3	15 48.4	16 51.6	13 41.9	15 48.4	10 32.3	-	1 3.2	-
	60～64歳	14 100.0	2 14.3	7 50.0	1 7.1	8 57.1	1 7.1	3 21.4	2 14.3	5 35.7	5 35.7	4 28.6	3 21.4	7 50.0	3 21.4	6 42.9	3 21.4	-	1 7.1	2 14.3
	65～74歳	43 100.0	19 44.2	13 30.2	7 16.3	19 44.2	4 9.3	6 14.0	4 9.3	14 32.6	15 34.9	6 14.0	16 37.2	15 34.9	16 37.2	21 48.8	6 14.0	-	2 4.7	3 7.0
	75歳以上	19 100.0	7 36.8	5 26.3	5 26.3	9 47.4	1 5.3	5 26.3	3 15.8	5 26.3	4 21.1	2 10.5	7 36.8	6 31.6	4 21.1	7 36.8	4 21.1	1 5.3	2 10.5	3 15.8
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	18 32.7	20 36.4	13 23.6	34 61.8	5 9.1	11 20.0	9 16.4	21 38.2	19 34.5	14 25.5	29 52.7	28 50.9	17 30.9	30 54.5	15 27.3	1 1.8	1 1.8	3 5.5
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	35 29.9	34 29.1	29 24.8	61 52.1	10 8.5	23 19.7	12 10.3	38 32.5	44 37.6	30 25.6	52 44.4	51 43.6	39 33.3	55 47.0	26 22.2	3 2.6	6 5.1	2 1.7
	無回答	16 100.0	6 37.5	4 25.0	3 18.8	6 37.5	1 6.3	3 18.8	3 18.8	4 25.0	6 37.5	5 31.3	4 25.0	6 37.5	7 43.8	9 56.3	4 25.0	-	1 6.3	3 18.8
	無効	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

○手帳所持者の回答傾向と比較すると、手帳所持者は全ての施策を必要としているが、手帳非所持者は、働く場や触れ合う機会を増やす、介助者を助けるサービスの充実などを挙げる割合が高い一方、障害者手当や医療を受診しやすくする等を挙げる割合は低く、手帳所持者との差は10～20ポイント程度開いている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

